



東京地区生コンクリート協同組合
〒103-0027 東京都中央区日本橋3丁目2番5号
電話番号 (03) 3271-2181
URL: https://www.t-namakyō.jp/
発行責任者 高村 尚

＝協組の動き＝

(6月)

12日(月) 理事会(No. 1196)

26日(月) 理事会(No. 1197)

(7月)

10日(月) 理事会(No. 1198)

24日(月) 理事会(No. 1199)

人事異動

【離職】

日付	部署	氏名
5月31日	調整管理部	紺野 崇史
5月31日	営業部	吉田 正志

【着任】

日付	部署	氏名
6月1日	調整管理部	村中 智
6月1日	営業部	雲野 好昭

2022年度 営業・技術概況報告紹介

通常総会と臨時理事会議事終了後に2022年度の営業概況及び技術概況報告を以下のとおり行いました。

【営業報告】(報告者：西森営業委員長)

2022年度の活動については、理事長方針である四つの課題、①新たな販売方式による適正価格の獲得、②安定供給の確保、③戻りコン・残コン・出荷キャンセルの削減、④構造改善の推進に則り、ユーザーとの相互理解の形成、登録販売店との信頼関係の構築、組合員の団結強化を基本方針として活動を展開して参りました。

1. 販売形態と債権保全について

2001年10月に開始した登録販売店制度による販売形態と現金取引は21年になるが、2022年度も順調に売上代金を回収している。

(1)登録販売店数

毎年度の契約更新にあたり、全登録販売店31社との意見交換

第364号 2023年(令和5年)6月15日発行

第47回 通常総会を開催 新理事長は青木氏へ

第47回通常総会が5月22日に都内ホテルの会議室にて開催されました。

齋藤理事長の挨拶の後、議事に移り、議長には常任理事の藤本学氏が選任されました。

まず2022年度の事業報告並びに決算関係書類、2023年度の事業計画並びに収支予算など第1号～第6号議案まで計6件の議案が審議され、全件原案通り承認されました。



藤本議長

次に、本年は役員改選期に当たるため、第7号議案として、役員(理事・監事)の任期満了に伴う全員の改選が審議され、原案通り承認されました。

【総会付議議案】

第1号議案

2022年度事業報告書並びに決算関係書類承認の件

第2号議案

2023年度事業計画並びに収支予算決定の件

第3号議案

2023年度経費の賦課金並びに徴収方法決定の件

第4号議案

2023年度受注量割賦課金・特別受注量割賦課金に対する最高限度額決定の件

第5号議案

役員報酬最高限度額決定の件

第6号議案

借入金残高の最高限度額決定の件

第7号議案

役員(理事・監事)全員任期満了に伴う全員改選の件

【理事】(敬称略)

(新任) 高山 弘 (株) 内山アドバンス

近藤 政弥 (株) むさしの生コン

(退任) 上村 清 (株) 内山アドバンス

【新執行部決定】

通常総会後に開催された理事会において、新理事長に上陽レミコン株式会社 代表取締役社長 青木 規悦氏が選出されました。新しい正副理事長は以下のとおりです。

(理事長) 青木 規悦 (株) 上陽レミコン
(副理事長)

一ツ木 正 (株) 東京菱光コンクリート

嶋津 成昭 (株) 関東宇部コンクリート工業

長谷川 義孝 (株) 東京エスオーシー

要 秀和 (株) 東京コンクリート

を実施し、2023年4月1日付けで31社と契約を更新した。

(2)2022年度末債権保全状況(2023年3月末)

債権額43億4千万円に対し、銀行保証と相殺契約を合わせた保証額は63億45百万円となっており、債権保全率は147%と十分な水準を確保している。

2. 販売数量等について

(1)2022年度出荷実績

出荷量は全国ベースで7,445万^m³(前年比97.8%)となり、過去最低を更新した。当協組は、建設現場における技能者不足等により、本格出荷には至らなかったが、大型再開発物件等の再開により、前年比106.2%となる277万^m³まで回復している。

(2)2022年度末(2023年3月末)契約残

2022年度末契約残は、前年比83.0%となる511万^m³となった。その内、2020年4月から値上げのJ物件は59%、2022年6月から値上げのP物件は24%となっている。

(3)2023年度の出荷数量予想

2023年度の全国需要は、前年比96.7%の7,200万^m³を想定している。当協組は、大型再開発工事等の進捗状況を踏まえ、300万^m³(上期150万^m³・下期150万^m³)を計画している。

コンクリートで夢を形に!!

総会終了後は新任理事、退任理事の方々から挨拶がありました。青木新理事長及び齋藤前理事長の挨拶の

内容は下記及び裏面に記載しております。

理事長就任の御挨拶

のりよし
青木 規悦



先ほどの理事会にて第10代の理事長に推薦頂きました青木です。東京協組では4年間常任理事として活動に参加して参りましたが、執行部でも無くまさに嵐の中の船長交代という感じで。ただ齋藤理事長には羅針盤のごとく東京協組という船をこの方向に進めたら嵐を抜けられるという方向性を示して頂きました。それが出荷ベースという契約形態の変更と21,100円/^m³の定価の達成だと思っております。

生コン業界はこの1年で5千円のセメント値上げを始め骨材や化学混和剤、運賃、電力の値上げ、更には政府方針のベースアップも含め大変なコストアップを受けざるを得ない状況です。また東京協組は旧契約500万^m³を抱えており日本一大変な協組の状態だと思っております。齋藤理事長には2017年からの6年間まさに命がけて我々組合員を引っ張っていただき、最大の功績は我々の果実である生コン価格を上げていただいたことです。経済/建設物価両調査会では2017年の就任時13,000円/^m³から現在は17,900/17,800円/^m³で約5千円上伸しました。また業界のイメージアップキャンペーン、遠隔臨場、理事会のWeb開催等の対応もしていただき、この1年は出荷ベースという契約形態の変更と2回に渡る価格改定にも取り組んでいただきました。

私は基本的に齋藤理事長の重点課題を引き継ぎ、まずは①新たな販売契約方式の導入による適正価格の確保②信頼される品質と安定供給の確保③残コン・戻りコンの有償化及び出荷キャンセルの削減④構造改善の推進。これらを4本柱と考えていますが、喫緊の課題として齋藤理事長からご提案頂いた銀行からの借り入れによる仕入価格の積み増しについても何とか達成して皆様にお示ししたいと思っております。また、10月を目途とした来年度の価格提示や来春の24か月条項の対応についても取組んで行きたいと思っております。齋藤理事長からの中長期の目標として品質管理における東京ブランド達成、週休二日制度、東京協組23区構想等引き継いでおりますが、足元を見据え一步一步進めて行きたいと思っております。

この度は6年勤められた齋藤理事長と12年勤められた西森営業委員長が退任される中での交代となりますが、大東京で暮らす人々の命と財産を守ることが東京協組の使命であり決して衰退させてはいけなく、若い方々が入社したいと思う産業にしたいと考えておりますので、今以上の皆さまのご協力をお願いして就任の御挨拶とさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

3. 価格について

(1)積算関係

建設物価及び経済両調査会を月 1 回以上の頻度で往訪し、表示価格の改定を要請した結果、以下のとおり早期に価格反映された。

	改定時期	改定内容
建設物価	2022 年 7 月	14,800 円⇒15,000 円
	2022 年 11 月	15,000 円⇒17,800 円
積算資料	2022 年 7 月	14,700 円⇒14,900 円
	2022 年 12 月	14,900 円⇒17,900 円

(2)広報活動

日本経済新聞並びに業界各紙、両調査会に対し必要の都度、記者懇談会を開催し、当協組の現状及び取り組み事項について説明した。

(3)販売価格

2022 年 4 月 1 日から L 契約番号として「解約基準の見直し」及び「原案会議における受付基準の運用厳格化」を実施した。また、2022 年 6 月 1 日からの P 契約番号として 3,000 円/㎡の値上げに注力し、ほぼ満額を確保している。

4. 2022 年度の営業関係の状況及び次年度の課題

(1)販売価格の確保

2022 年 6 月からの生コン価格 3,000 円/㎡の値上げ等については、組合員アンケートにより生産コストの実態把握に努めた。また、原材料費・運搬費等の急激且つ恒常的な上昇に対応する為、10 月 1 日より旧契約の定価の見直しを止む無く需要家の皆様へお願いした。以降、セメント価格の再値上げに加え、骨材価格の高騰が経営を圧迫していることから、再度組合員アンケートを実施の上で 2023 年 4 月 1 日から 2,000 円/㎡の値上げ実施を決定、併せて契約形態を見直し、現行の「契約ベース」から「出荷ベース」にて「1 年毎の有効期間契約」とすることを決定した。

(2)ゼネコンとの相互理解、商流との連携強化

ゼネコンとの相互理解を深める為、日本建設業連合会資材対策委員会、関東資材研究会との意見交換を定期的実施した。また、登録販売店と様々な会議を通じて、関係活性化及び課題解決の為にベクトル合わせを実施している。

(3)2023 年度の課題

2023 年度は、契約形態の見直しの定着及び 4 月 1 日実施の 2,000 円/㎡の値上げの早期満額獲得に向け精力的に取り組んでいく。併せて、残コン・戻りコンの削減、更には出荷キャンセル、納入予定直前変更の減少を踏まえた安定供給の確保等、販売店との意思疎通を十分に図り現状を共有し、ゼネコンからの理解・協力が得られるように努めることとする。

【技術報告】(報告者: 一ツ木技術委員長)

1. 2022 年度の主な活動

(1)圧縮強度試験の遠隔臨場

4 月 1 日より正式スタートして受付開始し、1 年間で 13 現場、15 件実施された。また、撮影頻度等を記載した実施マニュアルを作成し、立会者に事前提供して確認頂く方式を導入している。

(2)単位水量推定試験への対応について

3 月 16 日に城北小野田レミコン(株)試験室で実施した試験練りの映像を編集したビデオを作成。協組ホームページに掲載するとともに、映像ファイルを主要ゼネコンに配付した。

(3)2022 年度品質チェックシステム

技術委員会での決定に従い、2022 年度品質チェックシステムを実施

【検査内容】

- 骨材の現物確認
- 事務局による使用骨材産地・石質照合
- 判定会議による検査結果の判定

【判定結果】

全工場が「整合」の結果判定

(4)組合員報告書の実施

苦情・トラブルの再発防止、技術情報の共有化。
総報告件数: 2 件 (内、苦情 0 件、トラブル 2 件)

(5)各種講習会参加

JCI 年次大会 2022(千葉) 7 月 13 日~15 日オンライン開催
7 月 13 日に Web 開催された生コンセミナーに参加。

(6)WG 活動の推進

1)コンクリートの管理供試体強度に及ぼす初期養生に関する検討その 2 WG(東京都工組と合同)
報告書を作成し、東京都工組に提出済み。

2)暑中コンクリート検討 WG

20°C 環境下におけるスランプ経時変化試験結果を関東 1 区内の各工場から提供を受け、結果を集計した報告書を作成中。

(7)各種関係団体との定期懇談会開催

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催中止。

(8)協組品質管理監査結果

圧縮強度試験結果の推移 *)呼び強度比 1.50 以上で改善勧告

	'19	'20	'21	'22
改善勧告件数	0	0	3	1

(9)東京都生コンクリート品質管理監査への対応状況

1)品質管理監査委員会 4 回

2)品質管理監査対応 品質管理監査: 2 工場、査察: 2 工場、上・下期中間監査: 5 工場

(10)関東 1 区・東京都工組・共同試験所合同技術委員会

1)合同技術委員会 3 回

2)技術研修会 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催中止。

(11)各種会議

1)技術委員会: 3 回、技術部会: 7 回、

ブロック技術部会: 10 回/ブロック

・各種情報提供、組合員工場からの報告及び技術対応方針決定
・登録販売店への説明(文書発信及び説明会開催)

2)合理化委員会 2 回

3)卸協との業務連絡会 9 回

2. 2023 年度技術委員会活動計画

(1)圧縮強度試験の遠隔臨場

実施状況把握の目的で、販売店に実施状況報告書の提出を要請する。

新規に配合計画書添付書類などの電子データによる提出方法等を検討する。

(2)単位水量推定試験への対応について

ビデオによる PR を継続。また、試験データの拡充を目的として新たな試験練りを計画する。

(3)WG 活動の推進

2022 年 12 月に組合員工場から入手した標準化配合のデータを基に、新規スライド表作成に向けた WG の発足を検討する。

(4)各種講習会参加

1)JCI 年次大会 2023(福岡)生コンセミナー

(7 月 5・6 日、参加予定者 35 名)

2)その他随時必要な講習会に参加

(5)各種関係団体との懇談会の開催(年 1 回を目標)

1)混和剤協会関東ブロック

2)第三者試験機関

(6)2023 年度品質チェックシステム

立入検査は従来と同様に(一財)日本品質保証機構に委託。

検査方法は、通年・無通告を原則とする。



理事長退任の御挨拶

齋藤 昇一

3 期 6 年間、皆様のご協力をいただき何とか勤めあげることができました。本当にありがとうございます。この 6 年間は前任の吉野さんからバトンタッチし、オリンピック・パラリンピック需要で盛り上がりを見せた後はずっと低迷しており、数量低迷、コストアップの 6 年間で毎年値上げをしていたように思います。私はある時の PR で「私は過去最低の出荷記録を作りました。その代わり過去最高の生コン価格にしました。」と申し上げたことがあり、掛け算がいいのか足し算がいいのかよくわかりませんが、それなりに出来たのではないかと思います。

数量についてはこれからも私の記録を残したままにさせていただき、価格については今後取り組んでいく金額、更に上乘せもして手取りで 2 万円/㎡を超えるようにし、色々な投資を行って若い方々に入社していただける産業へと持っていかなければいけないと思っています。昨年のコストアップに対処するときに、私が前々から考えていた生コン産業が生き残るために

はやらないといけない、理想かもしれないけれどもやろうではないかということで、出荷ベースでの契約方式を導入しました。

また値上げについても皆様のご協力の下で 3 千円の価格上昇ができて、本年 4 月からの 2 千円の値上げについては大手ゼネコン社からの理解も大分得られてきているように感じています。新しい契約方式を一段と遂行するために、今まで以上に皆様信頼と団結をして取り組んでいき、より強い東京協組になることを目指して頑張りたいと思います。

東京協組の取り組みは全国の生コン協組(258 あるそうです)の方々から注目されています。失敗したら東京は大したことないと思われてしまうので、青木さんには難しい状況の中で難しい課題を色々と押し付けてしまうような形になり恐縮ですが、皆様一丸となって新しい契約方式と更なる価格の積み上げにぜひ挑戦していただくことをご祈念申し上げ、退任の御挨拶とさせていただきます。6 年間本当にどうもありがとうございました。

	(出荷数量)		(引合、成約、契残)	
	5月(実績)	6月(想定)	5月(実績)	前年比
大型	172,438 m ³	210,000 m ³	引合 43,499 m ³	11.7%
小型	25,614 m ³	30,000 m ³	成約 35,949 m ³	10.8%
計	198,051 m ³	240,000 m ³	契残 4,793,714 m ³	79.1%